

アート・オブ・ベースボール



スポーツ文化評論家

玉木 正之

(1)

野球は少々異質の球戯。小説・映画・演劇・絵画・彫刻・写真・建築……。これほど多様な芸術に表現された競技は他にない。

「夜の球場は本物の教会よりも教会に似ている」と書いた作家がいる。天空に聳える外壁から輝くカクテル光線は濃い緑色の大地を照らし出し、飛翔する天使たちが舞い踊る空間で奇蹟が起こる。

私はニューヨークのシェイ・スタジアムでその奇蹟の瞬間を目撃した。同点で延長15回を過ぎた試合を最後まで見届けられず、球場を出て外野席背後の地下鉄へと向かい、高架になっている駅への階段を上がっていたその時、遠くから大歓声が湧き起こった。

階段の踊り場に屯していた十人ほどの男たちの背後から覗き込むと、球場のレフトスタンドの隙間から遠くに光るホームプレート付近の光景が見えた。両足を広げた捕手に向かって走者が滑り込むようにする瞬間だった。捕手が走者にタッチしようとして身体を翻し、横に立っていた黒服の審判が両腕を左右に広げた。「セーフ!」誰もがその大声を聞いた。

スポーツ写真家ライファアの撮ったスタジアムは大聖堂のように輝いている。(1967年)



Sports Illustrated提供=ゲッティ共同